

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ダダーブ難民キャンプに住む難民の生活環境を改善する。
(2) 事業内容	ダダーブ難民キャンプの中でも、特に2010年から2011年の干ばつ被災によって登録されたソマリア難民用に新設されたイフォ2キャンプにおいて中間報告時点までに簡易Tシェルター248戸を建設し、248世帯に譲渡した。 なお、申請時に標準規格として採用が見込まれていた「仮設改善土ブロックシェルター」に代わり、屋根がトタン、枠組みは木材、壁はプラスチックシートである「簡易Tシェルター」が4月3日に標準規格モデルとして採用されたため、9月10日付変更報告書で報告の通り、当初計画の「仮設改善土ブロックシェルター」300戸に代わり、合意された標準規格である「簡易Tシェルター」モデルの仮設住宅を500戸建設することとなった。 この規格変更に伴い、事業は下記の手順の通りに実施された。 (ア) 事業実施体制の整備 ・ UNHCR、ホストコミュニティと砂、砂利の採掘場を確認。 ・ 当団体现地スタッフから、各現場監督へ仕事内容の指示、必要に応じトレーニングを実施。 (イ) 裨益者の選定 ・ UNHCR が作成したリストに基づき、プロジェクト・アシスタントを中心にキャンプで類似の業務経験を有するソーシャルワーカー（調整要員）を用いて、裨益候補者の家庭訪問。裨益者はより脆弱な世帯（母子家庭、高齢者、障がい者等）を優先して選定。裨益者として選定された世帯主と当団体とで覚書を締結、必要な作業を依頼。 (ウ) 仮設住宅建設用資材の調達・輸送 ・ 資材はケニア国内で調達し、イフォ2キャンプ内の当団体コンパウンドに輸送させた。 ・ 同コンパウンドにて、難民・ホストコミュニティの日雇い労働者が木材の防腐剤漬け作業を行った。 ・ 各仮設住宅建設場所まで、主にロバ荷車をホストコミュニティの住民からレンタルして資材を輸送した。資材の積み降ろしには、難民・ホストコミュニティの住民を日雇いした。 (エ) 仮設住宅建設 難民・ホストコミュニティからなる1チーム5名の建設チームを作り、建設を進めた。 ・ 基礎工事（測量・掘削） ・ 壁になる支柱の設置 ・ 屋根設置 ・ ドア・窓の設置

	・壁になるプラスチックシートの設置 建設工事監督、フォアマン（建設現場主任）が上記作業工程を監督。 （オ）譲渡・モニタリング 完成後、譲渡証明書に世帯主の署名を取り付けた上で、仮設住宅を引き渡した。プロジェクト・アシスタントを中心にソーシャルワーカー（調整要員）の協力を得て、譲渡後、各仮設住宅を訪問し、モニタリングを実施した。
（３）達成された効果	【期待される成果】達成度 49.6% 目標 500 世帯（2,000 人、1 世帯平均 4 人）の内、248 世帯（992 人）が仮設住宅で暮らせるようになった。 【成果を測る指標】 ・完成した仮設住宅の戸数：248 戸（49.6%達成） ・使用されている仮設住宅の割合：100% （完成した 248 戸全てが使用されている。） 【副次的効果】 ・感染症や風邪の予防。 ・強盗・害虫からの保護。 ・十分な空間の確保による精神的安定及び慣習の尊重。
（４）今後の見通し	2015 年度 5 月 29 日までに残り 252 戸を建設する。ダダーブ難民キャンプでは収入や資源をめぐる難民とホストコミュニティ間の軋轢が根深いことから、従来通り難民・ホストコミュニティ両方と協働して仮設住宅を建設することで相互理解・対話を積み重ね、ダダーブ難民キャンプ並びにソマリアにおける平和構築への足掛かりとなるよう事業を実施する。また、建設資材のうち必要なものについては入札を行った上で周辺地域から購入することで、地元経済に貢献する。現在の事業進捗に鑑みて、本事業は計画通り完了できる見通しである。